

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292700042		
法人名	医療法人社団 創造会		
事業所名	グループホーム寿		
所在地	千葉県我孫子市寿2-16-5		
自己評価作成日	平成29年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成29年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・認知症の状態になっても、家族、職員、地域の方々の協力の下、本人の望まれる生活を支援しています。
・地域行事には積極的に参加しています。(ごみゼロ運動・地元祭り・福祉フェスティバル等)
・外食会(入居者のご希望のお店)の実施をしています。
・個々の入居者に合わせた活動を支援しています
・美味しい、楽しい食事作りに努力しています。
・穏やかな環境作りに努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム寿」は、小規模多機能型居宅介護「ケアプラザ寿」が併設されていると共に、市内には法人が運営する医療や介護施設等があり、協力体制が整備されている。また、併設の「ケアプラザ寿」とは合同行事や消防訓練等で日頃から交流を行い、馴染みの人との交流継続や新たな馴染み関係の構築を支援している。法人は生きがい、働きがいのある職場を目指しており、人事考課・目標達成状況の確認・異動希望自己申告書等を行い、個々の意見・希望に配慮した、適切な育成に取り組んでいる。施設内独自の取り組みとして、委員会を設置し、職員一人ひとりがサービスの質の向上を目指し、やりがいを持って働けるような職場環境の整備に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、事業者理念を共有し、理念の実践に向かい日々取り組んでいる。	「住み慣れた環境の中で自分らしく生き生きとした生活が過ごせるよう支援致します。」という理念を掲げており、事業所内に掲示すると共に、経営会議や研修時に取り上げ、周知・共有に努めている。また、パンフレットに明記する等、外部の人達への理念周知を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会、回覧板や運営推進会議を通し、情報の交換や地域行事に参加し交流している。消防訓練にも参加して頂いている。地元保育園との世代間交流をしている。地域のボランティアも多く来所されている。	地域住民とは、日頃から挨拶を交わす関係を築いていると共に、自治会への加入・地域行事への参加・保育園児の来訪・ボランティアの受け入れ等、様々な形で外部との交流を積極的に行っている。また、地域住民と共に消防訓練行う等、地域との協力体制の強化を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の相談窓口として相談に応じている。またスタッフ全員認知症サポーターの研修を受講オレンジリングの支給を受けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者のご家族・行政・自治会代表・民生委員代表の意見を聞き、ケアの参考にしている。また、事業所サイドで困っていることについても相談をし、意見を参考にしている。	市職員・民生委員・地域包括支援センター職員・自治会長等を構成員として、2か月に1回、小規模多機能施設と合同で運営推進会議を開催している。会議では施設活動や取り組み状況の報告を行い、施設の理解促進に努めると共に、助言・要望等を受け、施設サービスの質の向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスの利用相談やサービス内容について担当者と相談し、より良いサービスを提供出来るよう取り組んでいる。また事業所サイドで困っている事についても相談・報告をしている。	日頃から市に対して、業務における相談や報告等を行い、連携を図っている。また、市の地域密着型事業所分科会に参加し、他の事業所と意見・情報交換等を行う等、地域の問題解決に向け、協力関係を構築している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止・権利擁護研修受講職員が職員に対し伝達講習をしている。全体会議時や申し送りにて身体拘束をしない本人の望む生活を送れるよう話し合い、ケアに取り組んでいる。	身体拘束排除におけるマニュアルの整備・内部研修の実施及び外部研修への参加等を通じて、職員の共有意識を図っている。法人に身体拘束委員会を設置し、困難事例検討や適切なケアの理解や実践に向けた研修等を行っており、周知徹底に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは何か勉強会を開催、マニュアルがあり、いつでも見られるようにすると共に毎月の全体会議にて虐待がないか確認し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については、図書や資料で各自、自己学習している。必要な利用者には説明し、活用出来るよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解除や改訂の際は不安や疑問点を尋ね、わかりやすいよう説明しご理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人様からの要望や希望を職員が聞く機会を常に持つこと。面会時等にご入居者様の状態を家族に報告。心身の変化や嗜好品等を本人・家族とは話し合い、安心した生活が送れるよう支援しています。	家族の訪問時や電話連絡時等を活用して、直接意見・要望等を確認している。また、運営推進会議開催時や家族の行事招待時を活用し、意見の言いやすい良好な関係作りに努めている。挙げた意見・要望においては、会議にて、周知・検討を図り、適切な改善に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議で職員からの意見や提案について話し合う。連絡ノートを活用し、提案事項の確認や会議で決まった事項について統一している。	定期的に会議を開催し、職員からの意見・提案などを確認している。また、人事考課・目標達成状況の確認・異動希望自己申告書等を行い、個々の意見・希望に配慮した、適切な育成に取り組んでいる。施設内に委員会を設け、職員一人ひとりが役割を担いながら、向上心を持って働けるよう、職場環境の整備に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	創造会全体で、生きがいの、働きがいのある職場を目指し、新人事制度を導入。各自、自己目標を設定し上司と共に目標に向かい実践している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己目標を設定。個々の職員に合わせたOJT・OFFJT、自己啓発、内部研修を実施している。また、Biz CAMPUSを開講、係長以上の役職者を対象としたセミナーを義務付け実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	我孫子市介護サービス事業者連絡協議会開催の研修や職員交流会（バーベキューやボーリング大会）市内7事業所の小規模連絡協議会を通しての交流をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時は、本人・家族等の生活歴や意向を出来る限り収集し、本人の希望する生活の実現に向け充分時間をかけ話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに、サービス利用の流れや経済面・精神面等の問題を含めた相談を行い、安心して利用出来るよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が望む生活が出来るよう、フォーマル、インフォーマルなサービス等必要な支援を見極め、ケアマネジメントし実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事作りや自室・共同部分の掃除、整理、整頓等を行い、役割や生きがいを持った生活が送れるような関係づくりを継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問しやすい施設環境を整え、本人・家族・職員との交流を増やし、チームで本人を支え合う関係作りを日々行っている。また、家族会を開催、職員手作りの食事やケーキで和やかな雰囲気好評を頂いた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、職員、地域の方々の協力の下、馴染みの人や場所、思い等が途切れないよう個別支援やアクティビティ計画をし実践している。	友人・知人等の訪問を随時受け付けており、馴染みの関係継続に配慮している。また、馴染みの場所への外出・地域行事への参加・地域資源の活用・併設の小規模多機能施設との交流等、様々な交流の機会を作り、入居者が地域の中で馴染み関係が継続・構築できるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立しないようアクティビティの提供、より良い人間関係が続くよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を継続し必要に応じて相談や支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	相談受付時や利用中も、本人の意向や希望を踏まえた生活が送れるよう情報を収集し、個別ケアを提供している。	契約時に本人・家族から意向・身体状況・生活歴等を確認すると共に、必要に応じて医療機関や他のサービス事業所から情報提供を受け、より詳細な情報の把握に努めている。入居後は家族との情報交換や生活の中から汲み取り、全職員が会議等で検討・確認を行い、より新しい情報の共有に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談時や利用開始時に生活歴や施設に望むこと、趣味や嗜好等確認し、書類にしてカルテにファイルしている。また、新しい情報も経過記録やノートを活用して情報共有している。		

【千葉県】グループホーム寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族から生後より現在までの生活歴や既往歴、有する能力等の情報を文章化し職員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望や意向を取り入れ、本人が望む暮らしが送れるよう、各関係者と話し合い、介護計画を作成、毎月ケア会議で継続から見直しを検討している。	日々の記録・会議時の検討内容を踏まえながら、介護計画を作成している。定期的に目標達成状況の確認や評価を行い、必要に応じて見直しを行っている。入居者の趣味・特技・身体能力の維持等を介護計画の目標に掲げ、入居者主体の生活に配慮した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったケアの実践を個別に記録。情報を職員間で共有し、本人、家族の要望、意向に沿ったケアの提供、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能性を生かし、個々の利用者に合わせたサービスの提供や紹介等、柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の協力の下、ボランティアの方とアクティビティを行ったり、世代間交流を持ちながら豊かな生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	受診時の同行、または通院が困難な利用者・家族には、訪問診療医との日程調整、本人の代弁等安心した生活が送れるよう支援している。	協力病院の他に希望のかかりつけ医への受診が可能となっていると共に、定期的に内科医・歯科医の往診が実施されており、適切な医療支援が行われている。必要に応じて職員が通院の付き添いを行い、医師・家族等と情報連携を図っている。協力病院とは、緊急時・急変時等においては、24時間体制での協力が確保されており、状態変化に応じた迅速かつ適切な医療連携体制が整備されている。	

【千葉県】グループホーム寿

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が日常の健康管理や医療相談、医療機関活用の支援をしている。介護職に対し医療の勉強会を開催している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院関係者（相談員）との情報提供や相談に努めている。退院後の利用について病院関係者や家族とサービス提供の留意点等を確認し、安全に生活出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	各関係機関と、利用開始時や利用中にも本人や家族、主治医との話し合いを定期的に行い、重度化した場合や週末期のケアについて話し合い、各関係機関と情報を共有しながら本人本位の支援をしている。	重度化・終末期においては、契約時に延命希望確認書・意向確認書を交わしている。内部研修の実施及び外部研修への参加を通じて、状況に応じた適切な支援が行えるよう体制を整えると共に、会議等で全職員が入居者・家族の意向や変化に応じて確認・検討を行い、安心して納得が得られる支援方法の統一に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は施設内外の研修を実施し、スキルアップを図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の職員連絡網、、、法人連絡網の活用、地元自治会協力者との合同訓練を年2回実施。災害に対する訓練を実施している。	併設の小規模多機能施設と合同で、消防避難訓練を実施している。訓練では、消防署立会いの下、搬送訓練や設備点検等を実施し、非常災害時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをしている。また、法人で個人情報保護法研修を実施しており、個人情報の取り扱いには十分注意し、日々の業務に取り組んでいる。	プライバシーの保護に関するマニュアルの整備すると共に、研修や会議等で周知・徹底を図っている。法人内で実施する研修等で、守秘義務・プライバシー保護についての制度や重要性について理解を深め、責任のある取り扱いや管理の徹底を図っている。接遇においては個人尊重を意識しながら、入居者それぞれに合った言葉使いや対応を心掛けている	

【千葉県】グループホーム寿

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望や希望を言い出しやすいよう1対1で話せる場を作ったり、自己決定が出来るよう選択式で選んで頂いたり、言いやすいよう環境を整えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの望む暮らしが送れるよう、個々のペースや生活習慣で支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容やお化粧ボランティアの協力により、お洒落について興味を持てるような計画を立てている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好を利用者から聞き取り、献立を作成している。入居者と職員で調理し美味しさ、楽しみを共有、一緒に食事を頂き片付けを実施、楽しい時間を過ごしている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備から片付けまでを共同で行っている。また、職員が随時希望を確認しながら食材の買い出し・献立の作成を行っており、入居者の嗜好や希望に合わせた食事を提供している。定期的に外食会・行事食を実施しており、食に対する楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好や疾患に合わせ、量や栄養バランス、水分量が確保できるようチェックシートに記入している。食事制限のある方には、かかりつけ医に相談・報告し指示をもらい、食事・水分量を生活範囲の中で配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯消毒や訪問歯科医による歯石除去・ブラッシング指導も実施している。毎食後、残存機能を生かした口腔ケアを実施している。また、訪問歯科に依頼し内部研修を実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、食事や適度な運動等を取り入れ、気持ち良く排泄できるよう支援している。	排泄チェックリストを活用しながら、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。夜間は入居者の状況や安全に配慮し、トイレ誘導等を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。その他にも、水分チェック表の活用・食事の工夫・運動の実施等、適切な排泄習慣の確保に努めている。必要に応じて医師や看護師に相談を行い、自然排便を促すための工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた飲食物の工夫(牛乳、青汁、植物繊維、寒天など)や毎日の体操、十分な睡眠がとれるよう支援し快便・便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望の曜日や湯温、入浴時間になるべく合わせて入浴を楽しめるよう支援している。	入浴においては適切な入浴機会を確保し、一人ひとりの体調・希望・身体状況等に応じて柔軟に対応している。入居者への声掛けや介助方法を工夫すると共に、必要に応じて、シャワー浴・部分浴・清拭等を行い、利用者一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。他にバラの花や沐浴剤の活用等、季節に応じて入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後はゆっくりソファで寛いで頂いたり、その人の生活習慣(午後の昼寝等)に合わせて、安心して気持ち良く休息出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の利用者の既往歴・現病歴を把握し、病気の特徴・症状・予防・薬の目的・副作用等をケア会議時等、職員間で共有し、状態の変化を見逃さないよう常に観察している。		

【千葉県】グループホーム寿

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の入居者に合わせたアクティビティ、趣味、外出等の気分転換の実施。日常生活の中では食器拭きや洗濯たたみ等役割を持った生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望を把握し、職員や家族の協力の下、外食に行ったり、季節感を感じられるようドライブや地域行事にも参加している。	入居者の希望・体調・天候等を考慮しながら散歩・買い物・ドライブ等の外出を支援している。委員会を設置し、行事・外出等の企画や実施すると共に、家族の参加を促進しており、外出がより楽しめるよう努めている。地域行事・祭り・併設の小規模多機能施設との合同行事への参加等、地域住民や馴染みの人との交流を広め、入居者の生活活性化に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力の下、外食に行く支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と電話したり、手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に居るよう生活感や季節感を取り入れて居心地の良い空間づくりや、臭いや温度、湿度等不快が無いような環境にしている。	共有スペースには、椅子・ソファ・テーブルが設置されており、自由にくつろげる環境作りがなされている。また、ウッドデッキ・庭・菜園があり、外気浴・園芸等、気軽に外の空気に触れられる環境が整備されている。	

【千葉県】グループホーム寿

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士でアクティビティをしたり、一人で静かに居られるような居場所作りを提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みもの、気に入っている衣類、テレビ等を活かして本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活出来るように配慮している。また、洋風・和風の使い方が選択でき、入居者の生活スタイルや身体状況に合わせた居室となっている。各居室にエアコン・換気扇が設置され、温度・湿度計を活用し、適切な空調管理もなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ハサミや針等の危険物も必要に応じて使えるよう職員が見守りながら使用している。		